



FILE PHOTO

Rosalie E. Dunbar/
ロザリー・E・ダンパー

(時事問題 編集者)

世界的食糧危機の解決策を、祈り求める

Prayerful solutions to the world's food shortage



FUMI SHIBASHI

2008年6月の初め、世界の指導者たちは、国連食糧農業機関(FAO)の呼びかけで、「静かなる津波」と呼ばれる、前例のない世界的な食糧価格の急騰に対処するため、ローマに集まった。

世界食糧計画(WFP)では、人命救助を目的とする供給網の支援のため、要員を配置して、公海上に船舶30隻、陸上にトラック5000台、そして、空には航空機70機を配備している。しかし、WFPによれば、現在起きている甚大な食糧危機に対して、WFPだけでは到底対応できず、これも、一時しのぎに過ぎないという。ボリビア、ニカラグア、ベネズエラの大統領は、キューバの副大統領と共に、これらの国々の人々に必需食品を供給するため、1億ドルの基金を創設した。しかし、彼らもまた、これで充分ではないことを認めている。アメリカ大統領ジョージ・W・ブッシュは、食糧援助のため多額の予算の承認を議会に要請した。

先進工業国は、穏やかな上昇傾向から、劇的な急騰に転じた物価の圧力にあえいでいるが、ブルキナファソ、カメルーン、象牙海岸、モーリタニア、セネガルなど、食糧が

あまり豊富ではない国々では、食物にまつわる暴動が起きている。西アフリカ各地では、食糧価格が5割上昇し、シエラレオネでは3倍になったと、ある情報源は言う。国連と世銀は共に、この結果、1億人に及ぶ人々が、貧困レベルに落ちることを予測している。

米国では、過去6ヶ月間で、小麦、とうもろこし、米などの穀類の価格が、41パーセントも上昇したが、エタノールを石油の代替燃料とするという熱烈な動向に、一部、他の国々から批判が寄せられている。今日、米国で使用されているエタノールは、とうもろこしを原料とするが、食糧をこの目的に使うなどんでもないと、激しい非難を浴びせる人もいる。議会でさえ、従来のようなエタノール支持政策を疑問視して、他の選択肢を勘案する意志を示し、例えば、セルローズ系エタノールの開発に関心が寄せられている。(「トウモロコシを原料とするエタノールに、目を背けるアメリカ」*The Christian Science Monitor*紙、2008年5月1日)。

これらの問題が検討され、調整されている、正にこのとき、積極的な祈りは、討議を

有効な解決策に導き、状況の更なる悪化の恐れや絶望感に、対処する助けとなり得る。

恐怖心を止める

危機に対処する強力な第1歩は、まず恐怖心に対処する手立てを掴むことである。恐怖心は、人のうわさで広がり、非難、混乱、悪意までも投げかける。これらの要素はいずれも、「肉の思い」と聖書が言うもの、本質的に、**神**に反対する仮想の心を、その源とする。「**神**は荒野に宴を設けることができるだろうか」(詩篇 78:19)と尋ねるのは、この心である。この心は、解決され得るということまで、疑わせる。その上に、非難や混乱などが加わり、間もなく、精神的な、身体的な、無気力が、有効な解決策を葬ってしまう。

キリスト教科学の発見者メリー・ベーカー・エディは、「**神**は『荒野に宴を設け』、**愛**の力を示します」(『否定と肯定』p.9)と述べて、この不安感を切り捨てる。私たちが個人的に、**愛**の力は、それを必要とする人すべてに届くことを確信するには、科学的に祈る必要があり、この祈りは神性の法則に訴え、そして、その結果が期待できるのである。**愛**は、あらゆる種類の恐れを追放する、例えば、役人たちの、必要が満たされないのではないかという恐れ、家族の、愛するものたちを救うのに必要な物資の到着が間に合わないのではないかという恐れ、また交通網の汚職のため援助物資が消えてしまったり、目的地に届かないのではないかという恐れなどである。恐れが消えると、創造性や、創意工夫が働き、新しい道が開かれ、力と勇気が生まれる。

指導者や支援者を支えよう

皆さまがこの記事を読んでおられる、正にこの瞬間、世界のどこかで、誰かが、トラックに穀物を積んで、必要な人々のところへ運んだり、積み荷を降ろしたり、配ったりしていることが大いにあり得るのである。あるいは、誰かが、そんな配送の手配をしているかもしれない。あるいは、食糧となる穀物を植え付けているかもしれない。あるいは、政府機関が危機について考え、答えを模索

しているかもしれない。すべて、これらの良い、有用な活動を、私たちは祈りによって支えることができるのである。

神の救いの力をイエスが証明したこと、死に直面したときでさえ証明したことは、今日の世界の問題もまた、イエスが教え、例証したように、解決され得ると、私たちに確信させてくれる大きな理由である。イエスは、物質主義的な思考、つまり、善いものは少数の者たちに属し、残りの者たちは何とかやり繰りしていかなければならないという考え方に、真っ正面から挑戦したのである。イエスは、その反対に、「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」(ヨハネ 10:10)と、宣言している。

汚職、誤った慣行、政府の身勝手さについて、文句を言うことは容易い。しかし、すべての人が神性の豊かさを受けるに値し、すでにそれを入手できる状態にあると確信していると、私たちの祈りは、もっと有効なものとなるであろう。いかなる指導者にしても、自尊心、うぬぼれ、過度の支配力、汚職、その他の性格的欠陥などによって、人々から善を奪うようなことがあってはならないのである。すべての人が、人々の必要を満たすことの大切さを認識し、開かれた心をもって、また自発的な行動によって、供給されたものを有効に活用することができるのである。

共通の立場を理解するために祈る

多くの国に関わる問題の解決策を見いだす難しさの一つは、全く異なる多くの集団から集まった人々が、ほんの小さな一つの共通の立場を見いだすために、苦闘しなければならぬことが、あまりにも多いためである。次の言葉が、私たちの祈りにとって力となるであろう:「**霊**は**神**であり、**神**は善である:従って善のみが唯一の実質であり、唯一の**心**である。**心**は物質の中には存在せず、存在し得ない」(メリー・ベーカー・エディ著 *Unity of Good*, p.25)。この言葉から、私たちは、食糧危機の解決策は、物質的状況のみに考えを集中してみても、つまり誤りをすべて分析して、それらを修正しようとしても、得られな

いだろうと思われる。人間の努力は重要であるが、何かもつと深いものに支えられている必要があるのである。真の必要は、神性の**霊**に心を向け、その**霊**性によって、考えや行動が動かされることである。**神**が自然に私たち一人一人に教え示している兄弟愛には、敬意や、親切心が含まれている、また、他の人々も**神**の理念であり、**神**の加護のもとにあつて、たとえ他の部族、他の国から来た人であっても、私たちにとって大切な人であることを、進んで受け入れる心も含まれているのである。

分離とか亀裂などという考えを越えて、すべての人が神性の**愛**のもとに一つになることができれば、私たちは自らの心を癒しの方向に進め、そして同時に、困っている人々を助けていることが分かる。**霊**の一致は、私たちの目を開いて、善いことをする道に導き、そうしながら、祈りに**靈感**を与え、心を**愛**で満たしてくれる。また、これらの祈りは、食糧をまかなえる値段で供給する世界的努力を支えることにもなる。

使徒パウロは、ローマの人々に対して、次のように書き送っている、「**神**は、**神**を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」(ローマ 8:28)。私たちが**神**への**愛**を感じる時、それは、**神**が現場にあつて、**彼の**神性の目的が恵みをもたらすように展開していることの証拠である。その恵みは、国によって、状況によって、まったく異なった形をとるかもしれない、しかし、**神**の現存が働く過程を認めることは、その結果が、関係者すべてに、平安と調和を確かにもたらす助けとなるのである。✿